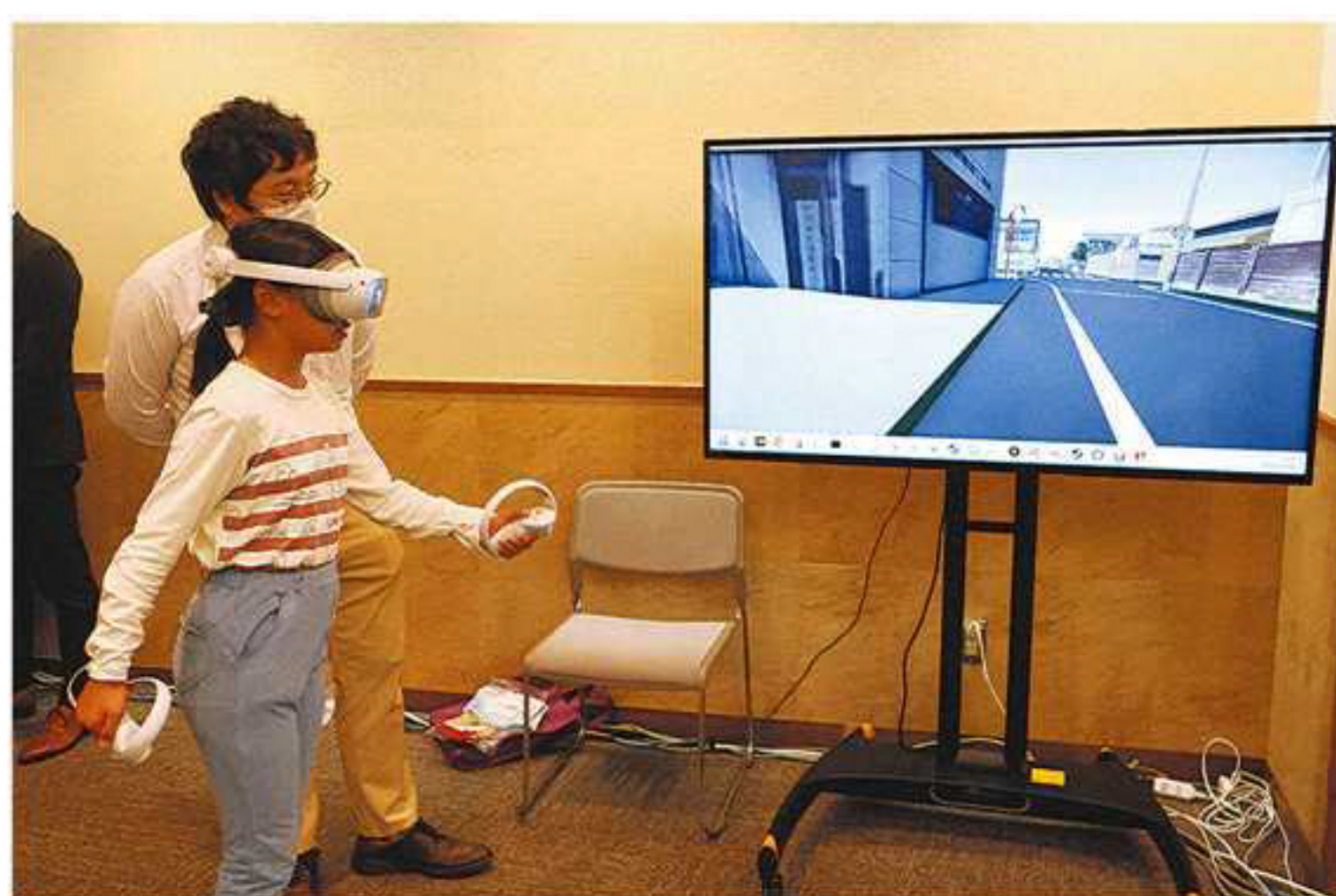


交通事故 VRで危険体感 豊田でフォーラム

VRゴーグルをつけて危険な場面を体験する参加者。豊田市小坂本町の豊田産業文化センターで



ながら運転遺族 則竹さん講演も

体験や講演を通して交通安全の大切さを考えるフォーラムが4日、豊田市小坂本町の豊田産業文化センターで開かれた。来場者は自分自身が事故に遭いそうな場面に出くわしたらと考える、備えを考えたい。

一般財団法人トヨタ・モビリティ基金などが市と共同で初めての開催。6種類の体験・展示ブースの設置と講演を実施した。講演では、2016年に一宮市でスマートフォン

ゲームをしながら運転していたトラックに、小学4年生の息子の命を奪われた則竹崇智さん(一宮市)らが登壇。事故の悲惨さと当たり前の日常の尊さを訴えた。

体験コーナーには、ゲームで認知機能を測る運転能力チェックや、死角の車に近づくと音で知らせる機能のついた自転車シミュレーターなどを設置。来場者は体験を通して危険な場面が身近にあることを感じた。

仮想現実(VR)体験では、同市土橋町の見通しの悪い交差点などを仮想空間で再現。子どもたちがゴーグルをつけて、大人の乗るドライビングシミュレーターにつなぎ、歩行者と運転者それぞれの立場から危険な場面を確かめた。

VRを体験した豊田紗詠子さん(11)は「車の間を抜けて道路を横断するとき、対向車が来てびっくりした。周りを見ておきたい」と省みた。(堀百花)